

DENTAL通信

2017.12
青山歯科医院

■ ■ 歯と骨とその病気 ■ ■

カルシウムを摂取することで歯の強さそのものにはあまり関係しませんが、歯が作られる幼少期にカルシウムを気をつけて摂取することで歯質の強化に繋がります。ですが、カルシウムだけでなく、エナメル質を強化するビタミンAや、象牙質を強化するビタミンC、カルシウムの吸収を助けるビタミンD、その他リンやマグネシウムなどもバランス良く摂取することが大切です。大人になってからの歯質の強化には、フッ素の塗布や唾液の質の改善が有効です。フッ素や唾液は、歯のエナメル質の再石灰化を促し、歯を修復したり強化したりする働きがあります。唾液の質の改善は、よく噛んで食べる、禁煙する、口呼吸の改善、規則正しい生活を心がけるなどの方法が勧められています。

★歯と骨の関係★歯と骨は別物とはいえ、歯を支えているのは骨であり、骨が弱ると歯も抜けやすくなってしまいうように、相互に影響を及ぼしています。骨が健康であるほど歯の残存本数が多い傾向があり、歯を支える歯槽骨がしっかりしていれば、歯も抜けにくくなります。また歯がないと歯槽骨はどんどんと吸収されて痩せていってしまいますので、歯と骨は相互に影響しあっているといえます。

★歯周病と骨粗鬆症★骨粗鬆症は、閉経後の女性に出やすい骨の病気で、エストロゲンという女性ホルモンの減少により骨密度が著しく低下することで起きます。骨が弱くなることで骨折しやすくなり、寝たきりの原因となってしまいます。歯周病は、歯茎が細菌に感染して炎症を起こす病気です。歯周病菌が徐々に歯周組織を破壊していき、やがて歯が抜けてしまいます。歯周病と骨粗鬆症は一見無関係に見えますが、骨粗鬆症により全身の骨がもろくなると、歯を支える歯槽骨ももろくなるため、歯周病による骨の吸収が早まってしまいます。また、エストロゲンには炎症を抑える機能もあるため、

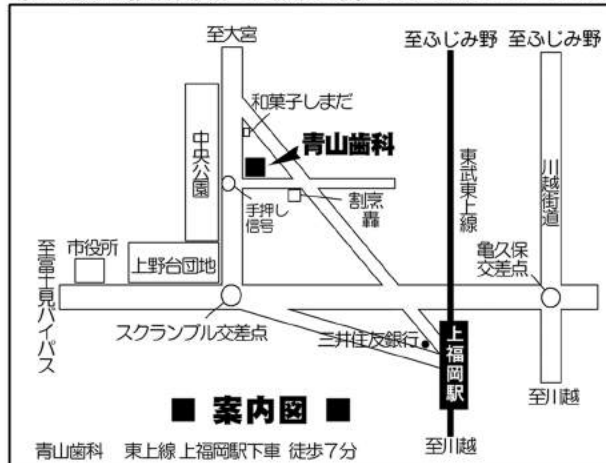
分泌が減少することで歯周病菌による炎症が広がりやすくなります。まだ歯周病を起こしていなくても、歯周病になる可能性が高まり、そして悪化させやすいということが起きるのです。実際に骨粗鬆症の人は、歯周病を併発している人が多く、また病状の進行が早いという傾向があります。

★歯科診療と骨粗鬆症★

骨粗鬆症の治療薬に、ビスホスホネート製剤という骨吸収を抑える薬があります。ビスホスホネート製剤の服用中に歯科診療を行うと、顎の骨に炎症が生じて、やがて顎骨が壊死してしまうことがあります。顎骨壊死が起こると、歯茎の骨の露出や顎の腫れや痛み、歯の動揺、下唇のしびれなどの症状が起こります。この副作用は口内を不衛生にしていると起こりやすくなります。必ずしも起きるわけではありませんが、骨粗鬆症の治療中に歯科診療を受ける場合には、医師や歯科医師への情報共有を怠らないなど注意が必要です。

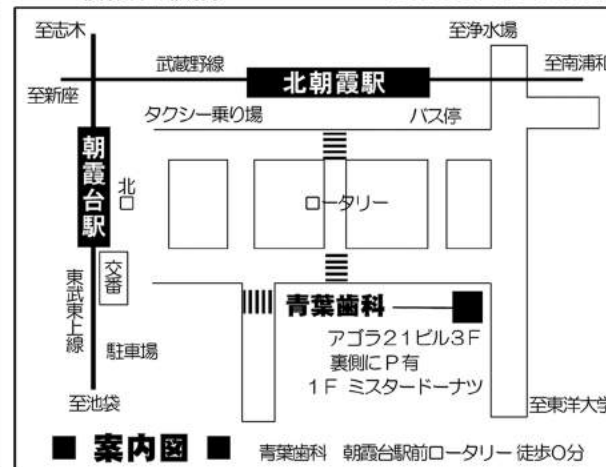
青山歯科医院

埼玉県ふじみ野市福岡中央 1-2-8
東上線 上福岡駅下車徒歩7分 Tel 049-262-1068



青葉歯科医院

埼玉県朝霞市浜崎 1-2-10 アゴラ 21ビル 3F
朝霞台駅前 Tel 048-474-8246



❀ お子さんの虫歯ゼロを目指して !! ❀
キッズクラブ【GOOD SMILE CLUB】始めました
スタッフまでお気軽にご相談ください

